



報 告 書

令和4年度スポーツツーリズム戦略推進事業
(スポーツイベント支援委員会運営業務等委託)

令和5年3月

令和4年度スポーツツーリズム戦略推進事業 (スポーツイベント支援委員会運営業務等委託)

目次

1. 本事業を実施するにあたっての基本方針

- (1) 事業実施の目的 P.02
- (2) 事業実施体制 P.03

2. スポーツイベントモデル事業及び付帯事業の公募

- (1) 公募資料の作成・提案受付 P.04
- (2) 広報・周知 P.06
- (3) 応募説明会・応募者向けセミナーの開催（オンライン） P.11
- (4) 応募事業一覧 P.12

3. スポーツイベント支援委員会の設置・運営

- (1) 第1回 支援委員会の開催 P.13
- (2) 第2回 支援委員会の開催 P.22

4. 選定事業者に対するアドバイザー支援

- (1) アドバイザー支援内容 P.28

5. スポーツイベントモデル事業及び付帯事業に係る補助金交付等の検査業務

- (1) 検査業務実施内容 P.29
- (2) 採択事業者面談の実施 P.29

6. スポーツイベントモデル事業及び付帯事業に係る効果測定

- (1) 効果測定実施概要 P.30
- (2) イベント参加者アンケート回答結果 P.33
- (3) 過去のスポーツイベントモデル事業について自走化状況の把握・報告 P.64

7. 採択事業概算報告書

- (1) スポーツイベント支援事業者概要報告書 P.65

8. 事業総括

- (1) 事業総括 P.95

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

令和4年度スポーツツーリズム戦略推進事業（スポーツイベント支援委員会運營業務）

ジャパンウィンターリーグ

実施報告書（概要版）

令和5年1月28日 事業者名株式会社ジャパンリーグ（交付申請者） 鷺崎一誠

■事業実施概要

【実施目的】

- ・「陽の目を浴びていない場所に光を当てる」をコンセプトに、18歳以上の野球選手に実践経験の場所を提供する。
- ・参加者をチームに振り分け野球のリーグ戦を行う。
- ・1日2試合のリーグ戦を22日（練習日2日、オフ8日）で実施する。
- ・参加者は参加費を支払い、プレー環境、宿泊場所を提供される。
- ・選手の進路に活路を見出し、野球界全体の底上げに繋げる。

【実施内容】

- ・主催
株式会社ジャパンリーグ
- ・後援
宜野湾市、読谷村、浦添市、沖縄市、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄市スポーツコミッション
- ・実施日程

2022年11月24日～2022年12月25日

- ・実施内容

運営方針「陽の目が当たらない場所に光を」

不運な怪我やちょっとしたタイミングでチャンスを潰し、活躍できるチャンスを掴めなかった選手のために、自分の力を最大限に発揮できる場を用意。

革新的トライアウト

全21試合を実施。平等にチャンスを与えられ、長期のトライアウトによって選手に本来の実力を最大限に発揮できる環境を作りました。また、リモートスカウティングの実施により全試合の選手の評価を定量化することで直接選手を見ることのできないスカウトに対してもリモートでスカウティングができるシステムを開発。

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

集客人数

	県内	県外（国内）	県外（海外）	付帯参加	合計
目標（提案時）	40	80	0	0	120
実績	15	44	7	0	66

・集客人数増減理由

学生野球選手

ボリュームゾーンとして想定していた高校野球連盟、大学野球連盟の所属の18歳、22歳の選手の参加が1人に止まってしまったことが選手未達の最大の要因。

要因としては①周知不足②ルール上の問題があげられる。

①周知不足

ウィンターリーグの情報を学生選手に存分に届けられていなかった。初年度ということもあり、参加費が30万越えの高額商品であるので、WEB上のみのマーケティングでは説明が不十分であり購買につながらなかった。

②ルール上の問題

学生野球憲章上のルールとしてプロ志望届を提出しなければ参加できないので、参加ハードルが高い。世間の認識としてプロ志望届はNPBを志望する選手のみ提出するものというイメージがある。



7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

■ 実施報告



7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書



7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

令和4年度スポーツツーリズム戦略推進事業（スポーツイベント支援委員会運営業務）
スケートボードコンテスト「東京マガジンモーターズ presents 橋コン2022」
実施報告書（概要版）

令和5年2月27日 事業者名（T&T アーバンソリューションズ株式会社）

■事業実施概要

【実施目的】

地元根付いている沖縄ストリートカルチャーをベースに『沖縄をスケートボードアイランドにする』をビジョンにし、スケートボードコンテスト「橋コン2022」を開催することで、「沖縄ストリートカルチャーの魅力発信」「競技の普及育成強化」「地域振興」「次世代型アーバンスポーツエンターテイメントイベントの創出」を実現させていく。

【実施内容】

・主催

橋コン2022実行委員会（沖縄県アーバンスポーツ協会）
T&T アーバンソリューションズ株式会社

・後援

南風原町、南風原町教育委員会、南風原町観光協会、南風原町商工会、
南風原町社会福祉協議会、島尻青年会議所、那覇商工会議所、在沖米国商工会議所

・実施日程

2022年12月10日（土）・11日（日）

・実施内容

種目：スケートボード指定セクションのワンメイクコンテスト

競技方法：審査員による採点方式

クラス：U-12クラス、U-18クラス、ガールズクラス、Over35クラス、オープンクラス
計5部門

会場：南風原町スケートパーク

・集客人数

	県内	県外（国内）	県外（海外）	付帯参加	合計
目標（提案時）	60	40	0	200	300
実績	49	10	0	1,381	1,440

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

集客人数増減理由

事象	増減理由と考えられる要因
U-12, U-18, ガールズクラスの参加者が見込みより大きく下回った。	U-12, U-18 については、競技者への訴求出来ていなかった。Instagram やポスターだけでは情報伝達が不足していた。 また、大会に出場したことがないスケーターが多いカテゴリであり、出場を促したが「自身が無い」「恥ずかしい」といった声が複数あった。
県外からの誘客が目標に対して達成率が25%。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県外から参加したいと思わせる目玉となる賞品や付加価値の不足 ・ 告知量、告知期間不足
付帯参加者（観戦者及び体験会参加者）が大幅に増加	南風原町内での告知が広がった。 体験会や音楽、飲食店出店などのコンテンツが充実していた。

■ 実施報告



7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

【感染症対策】

① 下記内容の Web サイトへの告知

スケートボードコンテスト『東京マガジンモーターズ presents 橋コン2022』

12月10日（土）11日（日）の二日間は安心・安全な試合開催のために

- ・会場内では、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保するようにしてください。（入退場時、トイレの列など）
- ・手洗い、手指消毒をこまめに行うようにしてください。
- ・マスク着用について

熱中症対策でマスクを外す場合は、屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）の確保、咳エチケットに十分ご配慮ください。

※会場でのマスクの配布はございません。

- ・ご来場を見合わせていただきたいお客様

下記に該当するお客様は、勇気をもってご来場を見合わせてください。

体調がよくない場合（例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合）

同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

② アルコール消毒設置、エントリー参加者への検温。

③ 場内アナウンスの実施。ソーシャルディスタンス、アルコール消毒の推奨

■ 実施報告

The screenshot shows a website announcement with the following content:

- Header: [橋コン2022] では感染症予防対策を徹底しています！
- Metadata: © 2022.12.10, アーカイブ (2022年12月, 2022年11月)
- Main Text: スケートボードコンテスト 『東京マガジンモーターズpresents橋コン2022』
12月10日（土）11日（日）の二日間は安心・安全な試合開催のために
- Bullets: ・会場内では、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保するようにしてください。（入退場時、トイレの列など）
・手洗い、手指消毒をこまめに行うようにしてください。
- Image: A large stylized logo for '橋コン' (Hashi-con).

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

■ 事業実施結果

(1) 沖縄の優位性の活用

会場を吹き抜ける心地よい沖縄の風を受けながら、多くの来場者が T シャツ姿でイベントを楽しんでいた。冬でも路面凍結しない年中滑れる温暖な気候は、県外から訪れたスケーター達が最初に感じる沖縄の魅力である。

また、本事業の会場となった南風原スケートパーク（通称：橋）は、沖縄のスケートシーンが伝承されているスポットとして県外のスケーター達へも認知が広がった。

本事業への参加が叶わなかったが、開催日の前週には、東京オリンピックのメダリストや全国で活動している女性スケートボーダーコミュニティが、橋を訪れ地元スケーター達との交流を楽しんでいた。

(2) 沖縄観光への貢献

①県外から参加したスケーターらは、イベント前後も本島各地のスケートボードスポットに立ち寄り競技を楽しんでいたことから、県内各地への移動が多くストリートカルチャーへの消費、お土産物の購入飲食店での消費が多いことがわかった。

②県内スケートボードイベント増加の波及効果

本事業開催を受け、県内各地でスケートボードイベントが増加傾向にある。本事業の開催発表から、今日に至るまで（11月～2月）に名護市、沖縄市、那覇市、宜野湾市においてスケートボードイベントが開催された。イベントやコンテストが増加することで、競技者人口の増加・競技力の強化は勿論のこと、運営ノウハウの蓄積や人流拡大に繋がっていくものと考ええる。また、アーバンスポーツの可能性を地域振興に活用しようとする自治体も出てきており、今後も市場の拡大が予想される。

(3) 沖縄のスポーツツーリズム発展への貢献

本事業では、今後のアーバンスポーツ市場の拡大を見据えて、スケートボード以外の競技をイベント内に取り込んだことで、大幅な集客増加に繋がった。

本事業の開催地となった南風原スケートパークの立地は決して恵まれている環境とは言えず、地元の間人からも所在地が定かではないとの声もあったほどである。しかし、そのような環境であっても魅力的なコンテンツやストーリー（沖縄スケートボード界の整地）があれば多くの間人が集まるということを実証できたと考ええる。

本事業の観戦や動画を観たことで、県内各地からアーバンスポーツを活用したイベント計画の問い合わせがあった。その関心の高さから、アーバンスポーツは、沖縄のスポーツツーリズム発展へ貢献していく可能性が高いコンテンツであると言える。

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

(4) 組織体制

今回、南風原町をはじめとした多くの団体に後援頂き開催出来たことが出来たことで、県内での広報活動には一定の成果が出たものと考えている。

- ・マスコットキャラクター「はえるん」によるスケートボード動画投稿
- ・観光協会公式 Youtube 番組「兼城十字路チャンネル」撮影
<https://www.youtube.com/watch?v=EmbNcIP7czc&t=14s>
- ・ポスター掲出 等

(5) 意識と目的

ビジョンと目的、準備段階で共有出来こと、開催後に共有できたことがある。

ビジネス・観光・競技・地域、様々な視点を持った人間による運営体制であったが、意見交換を重ねてお互いを尊重しあう関係が構築出来たと考える。

(6) 市場性

前述に記したとおり、アーバンスポーツは、沖縄のスポーツツーリズム発展へ貢献していく可能性が高いコンテンツであると言える。

特にスケートボード、3x3 バスケットボール、ブレイクダンスは競技者人口が多くスポーツイベントの開催ニーズは高く、集客が見込まれる。

(7) 募集告知

Over35、オープンクラスの参加者エントリーについては、スケーターコミュニティへの直接的な訴求が効果的であると把握出来た。

(8) 実現性

スケジュールがタイトであったが、計画通りに事業遂行出来たと考える。

(9) 収益体制

収入としての「増加させるべき項目」「増加困難な項目」「新たな収益源」、支出としての「追加項目」が把握出来た。

(10) 将来性

本事業で取り組んだコンテンツ精度を強化し、継続的な集客イベントとしていく。

- ・メインコンテンツとなるスケートボードにおいては、クラスごとの訴求により集客を増加
- ・BMX、けん玉、ペイントアート体験会に加えて、競技者人口が多い3x3 バスケットボール、ブレイクダンスの大会を加えていくことで集客増加

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

・物販や飲食店エリアの拡充による滞在時間の延長

■事業総括（自走化に向けての課題と今後の展望）

スケートボードと3×3バスケットボール共に、ファッション的な要素が大きくカルチャーをバックグラウンドに持つ街中で遊ばれているストリートスポーツであるため東京オリンピックで競技として採用されることで、そのカルチャーが失われるのではという不安を持つ競技者が多いことを知りました。

従来の決められたルールが多い環境下でのスポーツ大会とは、相反するものです。それでも、本事業を通して企業や行政との連携したイベント開催により、競技としての可能性が増えました。カルチャーやスポーツの側面などスケートボードにいろんな選択肢が増えたので業界全体としては本事業を行ったことはプラスになったと考えています。

事業総括としては、「上手い下手関係なく、プロや子どもたちも一緒に楽しめる環境をつくり、みんなが楽しめたスポーツイベントに1,400名の来場者」の一言に尽きます。

次年度以降は、「アーバンスポーツをもっと身近に楽しめる環境づくり」に取り組みたいと考えています。街中で各スポーツのトップ選手を集めて複合的なイベントを行うことで競技間でも相乗効果が生むことができ、その地域でもいろんな取り組みが生まれます。その街の行政や企業、住民の方と協力してどうやっていけるのか。ソフトとハードの両面から時間をかけて取り組んでいきアーバンスポーツフレンドリーな沖縄を目指します。

自走化に向けては、企業からの広告協賛金獲得拡大が必須である。集客数を拡大しイベント告知及び会場内での広告価値を高めていくことが今後の最重要課題である。

次年度は、広告協賛収入300万円を目標とする（今年度164万円）

企業が望まれるパートナーシップの形は、さまざまであり、企業が希望されることや実現したいこと等を伺い、本事業をパートナーシップとして活用して頂ける提案をしていく。

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

会場広告 会場に企業ロゴを掲出できます。試合中だけでなく、メディアでの二次利用、SNS等様々な場面で露出を期待できます。	印刷物等へ社名(ロゴ)掲載 会場内社名アナウンス	公式名称の使用 「アラハビーチサイドゲームを応援しています」と販売物や広報物などに表示・掲載できます。
PRスペース 会場内に御社ブースを設置頂けます。来場者と直接やり取りできるので来場者との親和性や訴求効果を高めることができます。	サンプリング 御社商品や印刷物などを、来場者に対してサンプリング配布し確実にターゲットにリーチすることができます。	SNS活用 イベントのSNSを活用して企業、商品、イベントやキャンペーンの告知を行うことができます。
アクティビティ 将来を担う子供達に向けた社会貢献やCSR活動の実施も可能です。	イベントへのアスリート派遣 企業様主催のイベントにアスリートをゲストとして呼ぶことが可能です。※要相談	ビジネスマッチング支援 他企業との交流が可能で、パートナー企業同士の繋がりを広げるお手伝いをします。

また、次年度開催に向けては下記事項に取り組んでいく。

2023年度 令和5年度	大会認知拡大 ・Tiktok 若年層への認知拡大 ・Instagram スケーターインフルエンサー育成 ・有名スケーターのゲスト招聘 ・海外スケーターへのPR	目標集客数：2,000名
	大会競技数の拡充(1→3) スケートボード、3x3、ブレイクダンス	
	競技レベルの向上、賞品の充実	
	運営体制の強化 (マーケティング会社、メディア連携)	
2024年度 令和6年度	大会認知拡大 ・有名スケーターの誘致 ・全国大会へと続く大会の誘致	目標集客数：2,500名
	大会競技数の拡充(3→5) スケートボード、3x3、ブレイクダンス パルクール、BMX フラットランド	
	競技レベルの向上、賞品の充実	
	運営体制の強化	
	エンターテインメントコンテンツの強化	

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

令和4年度スポーツツーリズム戦略推進事業（スポーツイベント支援委員会運営業務）

沖縄フレスコボールキャンプ 2023

実施報告書（概要版）

令和5年2月28日 一般社団法人日本フレスコボール協会

■事業実施概要

【実施目的】

- ①本来ならビーチの閑散期である時期に、『沖縄の美しいビーチでの新しいスポーツの体験機会』を提供するため。
 - ②『1年を通じてスポーツアクティビティ、コミュニティを楽しめる』という沖縄特有の新たなスポーツツーリズムの機会創出&認知定着化を図るため。
 - ③過年度とは異なって「宮古島」で開催をすることで、長期的な開催を見据えた際に「離島」における開催&自走化のポテンシャルを確認するため。
- 以上の①～③を主な目的に据え、本イベント開催を通じて、国内外のフレスコボール競技者に向けた沖縄観光の魅力を伝えてまいりたいと考えております。将来的には、本大会をアジア最高峰の大会に位置づけられるように取り組んでいきたいと考えております。

【実施内容】

- ・主催：一般社団法人日本フレスコボール協会

- ・後援：宮古島市、宮古テレビ株式会社、株式会社宮古毎日新聞社、
一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー、一般社団法人宮古島観光協会

- ・実施日程：2月11日(土)12日(日)

- ・実施内容：『沖縄フレスコボールキャンプ2023』の開催
 - ↳「FRESCOBALL JAPAN TOUR 2023」第1戦にあたる公式戦を実施
 - ↳初心者向け「フレスコボール無料体験会」を実施

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

・集客人数

目標	令和2	令和3	令和4(目標)	令和4(実績)
県内参加者	100	44	100	150
県外参加者	58	84	150	200
海外参加者	0	0	10	0
付帯参加者	40	40	100	50
総集客数	198	164	360	400

・集客人数増減理由

当初の広報計画になかった「大会ポスター」の45箇所における広域掲示が実現したことで、イベント開始前から島内において一定の認知度を獲得。体験ブースに多くの県内参加者の方々が足を運んでくださいました。市担当者によると、前日までに島内から市役所に複数の参加問い合わせが寄せられていたとのことでした。また両日とも珍しく快晴が続き、県外観光客も与那覇前浜ビーチまで足を運び、試合観戦&体験を楽しんでいたようでした。このほか、宮古島住みます芸人「ゲラゲラ星人」や「ありんくりん」など、アンバサダーを目当てに足を運んだ方々も一定数おり、効果があったと考えています。

選手参加者数は例年並となるも、帯同者は想定より下回りました。沖縄本島とは異なり、交通手段や費用の面でのハードルに加え、三連休ではなかったことで、家族みんなでの参加を見送るなどの声が聞かれました。

次年度以降は、県外参加者の日取りやアクセスも踏まえ、開催場所ならびに時期を検討したいです。

■ 実施報告

※画像 10 点程



7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書



7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

【感染症対策】

■ 関係者の体調管理（検温など）の徹底

- ・全ての参加者に対して、受付時の検温を実施し、体調を確認。37.5 度以上あった場合は参加を見送ることを徹底。（スタッフ、選手共通）
- ・結果として体調のすぐれない者はいませんでした。

■ 実施報告



■ 事業実施結果

(1) 沖縄の優位性の活用

沖縄の持つ自然環境や気候、スポーツ資源、観光資源の優位性を活用し、またそのスポーツを目的に参加者が「他県ではなく沖縄に行く意味や動機」を持つ魅力的な企画を実現できたか。

【成果】

ビーチスポーツのオフシーズンである 2 月にイベントを開催できたのは、他県ではなく沖縄県の持つ環境優位性が背景にあります。また初めての離島開催となりましたが、そのことでイベント外の時間でも選手同士の交流が容易となり、他大会にはない濃い滞在時間を提供できたように考えています。

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

【課題・改善案】

宮古島へ直行便のある地域の選手参加率は高かったですが、那覇乗換が必要となる地域の選手（四国など）は参加を見送る傾向が見られました。また例年と異なり、開催が三連休ではない日取りに。イベント前後の休みを伴う必要があり、それを理由に参加を見送る選手も一定数いました。来年度は、日取りやアクセスの良さも念頭に、開催時期・場所を選定したいと考えています。

(2) 沖縄観光への貢献

事業の開催により地域経済への貢献（観光客数・観光消費額の増加等）や地域への運営ノウハウ等の蓄積ができ、繁忙期と閑散期の格差縮小等、観光課題の解決につながる取組みが実現できたか。

【成果】

観光への貢献も念頭に、イベント二日目は早めの終了となるようなタイムテーブルを組むなどの工夫を実践。宮古島というコンパクトな地理も功を奏し、参加者の多くがイベントと用事のすきま時間にレンタカーで島内のすみずみを巡るなど、積極的に観光に出向いていました。また昨年までと違い、コロナの感染状況もある程度緩和していることから、夜は飲食店数軒に足を運んでいる選手たちの姿も印象的でした。このことから、地域経済への一定の貢献は果たせたように感じています。また2月に本イベントを開催し、さらにウインドサーフィンの世界大会も同日・同会場で開かれたことで、ビーチ閑散期における海&ビーチにおける両側面からにぎわいを創出できました。このことは、与那覇前浜ビーチに足を運んだ県外観光客にも目新しく映り、閑散期におけるビーチの利活用という課題に取り組みたと考えています。また初の離島開催を無事に終えることができ、JFBA&現地協力団体ともに、運営ノウハウを蓄積することができました。

【課題・改善案】

例年ならイベント終了翌日が終日オフとなるような参加者も多かったですが、飛行機の出発時間の都合で翌日昼の便で帰る選手も多く見受けられました。もう半日余裕があるだけで、観光の選択肢も広がるため、次年度以降は各地から飛行機のアクセスも踏まえた上で、開催日やタイムテーブルの検討を行いたいです。

(3) 沖縄のスポーツツーリズム発展への貢献

他にはない独自の魅力を有するイベントであり、今後の拡大発展を見込んだ「将来への投資に値する価値があるか。また、新たな観光誘客の可能性があるか

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

【成果】

フレスコボールという競技そのものは参加障壁が非常に低く、かつ相手を打ち負かさない「思いやりのビーチスポーツ」であり、他のスポーツにはない独自性を有しています。特に老若男女問わず、さまざまな組み合わせで試合に挑めることは大きな魅力で、過去3年間のイベントを通じて、小学生からシニアまで多くの方々に参加いただきました。そのことから、本イベントを普及・拡大していくことは、年代や性別を限定せず、広い層への観光誘客可能性があると考えています。またユニバーサルでやさしい競技特性からも、参加者同士のつながりも強固になりやすく、関係人口の創出にも大いに親和性が高いのが特徴。一年中温暖で、ビーチに恵まれた沖縄県と、「いつでも・どこでも・誰とでも楽しめる」フレスコボールの相性は他県にはない唯一無二のものであり、フレスコボールの聖地化に向けて今後も精力的に活動してまいります。

【課題・改善案】

スポーツツーリズムにおける「する」「見る」「支える」という観点で、「見る」に関しては大きなのびしろがあると感じています。特に普及も途上であることから、初見でルールを理解できないことはハードルの一つです。これを改善するためにも、MCによる解説や解説資料の会場内掲示など、より「見る人」にやさしい環境づくりをしていきたいです。それらを通じて、将来的には「たまたま見る」ではなく「わざわざ観に行く」という行動変容を増やし、「見るスポーツ」してのさらなるぎわい創出につなげていきたいと思えます。

(4) 組織体制

開催市町村や関連競技団体との連携が構築でき、今後の運営に足る実施体制を備えることができたか。

【成果】

アドバイザー面談におけるアドバイスを受け、宮古島市に加え、地元メディア各社の後援を獲得。事前のイベント告知や取材など、本イベントのPRに大きくお力添えいただきました。イベント準備にあたっては、市担当者（観光商工課）仲間氏が常に伴走くださり、深い関係性を構築することができました。このほかイベント各関係者から「思いやりのスポーツの魅力を実際に目で見て、肌で感じていただけたことで「また宮古島で開催してほしい」という声を多数いただきました。これらの好意的な反応からも、今後の運営においても意義のある十分な実施体制を備えることができたと思えます。

【課題・改善案】

今回、ダグズ・バーガーからの協賛を新規獲得できたことで、地元企業へのセールスに一定の手応えを感じています。その一方で、JFBAスタッフが不在でもセールス体制を築けるよ

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

う、例えば現地広告代理店との連携を図るなど、収益化に向けた組織体制の強化には取り組んでいきたいです。

(5) 意識と目的

事業を通じて達成していくべきビジョンや目的・将来像を関係者間で見出し、共有することができたか。

【成果】

JFBA では「各地域での公式戦開催を通じた地域振興ならびにスポーツツーリズムへの貢献」をコンセプトに掲げ、年間ツアーを組んでいます。その中で、初の離島開催を通じて宮古島に新たに公認地域クラブ設立の動きが始まったことに加え、各選手から「毎年沖縄に行けることを楽しみにしている」といった声が届き、当協会が目指す将来像へ一定の手応えを感じています。また「沖縄をフレスコボールの聖地に」という当協会の想いは、スタッフだけでなく、選手らも浸透しつつあり、試打として同会場に用意していた沖縄県産ラケットにも多くの関心が寄せられました。聖地化に向け、意義あるイベントだったと感じています。

【課題・改善案】

特になし。

(6) 市場性

競技人口の大小を問わず、スポーツイベントとしてのニーズ、また今後も集客が達成される市場性が把握できたか。

【成果】

三年連続となるリピート参加者も多く、強いニーズを感じています。また昨年フレスコボールを始め、今年から初めて参加したという新規者も多く見受けられました。その多くが、来年度以降もぜひ沖縄で開催してほしいという好意的な感想を寄せており、今後の集客可能性に手応えを抱いています。

【課題・改善案】

市場拡大という観点で、沖縄県外・県内での認知向上、競技人口を増やしていく必要があると再認識しております。

(7) 募集告知

ターゲットを明確に定め、今後県内外のターゲットに対して直接的かつ効果的に告知できるプロモーション手法を把握できたか。

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

【成果】

熱量の高い参加者を確実に取り込むため、例年にはない早い段階で会場確保を行い、10月時点で開催プレスリリースを出しました。そのことで、航空機や宿泊施設を安価で予約することにもつながり、当初定めていたターゲット層＝コアユーザーの確保に成功しました。このほか、公式アンバサダー・ありんくりんやゲラゲラ星人の SNS 発信を連携し、若年層の参加や、SNS 上での認知度獲得にも寄与。航空会社のセール情報を JFBA 公式 SNS でも発信するなど、誘客に向けた取り組みを行いました。

【課題・改善案】

特になし。

(8) 実現性

確実に実現できる実施・運営計画が立てられていたか。

【成果】

事前設営日を設け、さらに雨天でも一日にて完結できるタイムテーブルを用意していたため、確実に実現できる計画となっていました。

【課題・改善案】

イベント会社との打ち合わせからも、細かな音響接続機器などは離島では即座に入手できない場合があることから、より入念に事前準備・確認を行う必要があることが再認識しました。

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

■事業総括（自走化に向けての課題と今後の展望）

〈事業総括〉

3年に及ぶ事業実施を経て、沖縄県における本イベントの集客可能性・開催意義を改めて確認することができました。そのため、次年度以降もぜひ継続して本事業に取り組んでいきたいと計画しています。集客に関しては、コロナ禍の影響で苦しんだ側面が大いにありますがその中でも三年連続で参加した選手や、新たに参加した層など、多くの人々に参加いただきまた次年度以降の開催も切望されていることを確認できたことは大きな収穫です。本年度に関しては、初となる離島開催でしたが、例年並の参加者数を記録。次年度以降に向けて、離島開催でも十分に催行可能であることを知ることができた貴重な機会となりました。

〈次年度以降の取り組み〉

いよいよ自走化が求められる次年度以降は、以下を目標に据えたいと考えています。

◆参加費収入の増加（386⇒700[千円]）

イベント総集客数を、400名（本年度）から800名へ（次年度目標）。そのうち大会参加者を倍増することで、70万円の参加費収入を目指します。

◆スポンサー収入の増加（546⇒700[千円]）

琉球 DigiCo のメインスポンサー継続のために、最優先でセールス開始。このほか、小口協賛を多数集めることで、収入基盤を確固たるものにしたいと考えます。

そのほか、沖縄県内外における競技人口の増加、認知向上は引き続き取り組んでいくべき重点テーマです。そのために、子どもからシニアまで誰もが楽しめるスポーツであることを打ち出していく、今まで当協会が実施してきた以下施策にさらに注力し、継続していきたいと考えております。

- ✓フレスコボールの広報強化（各種 SNS、プレスリリース、TV、ラジオなどのメディア露出強化）
- ✓賛助会員制度の整備による収益基盤の強化
- ✓地方大会の増設をきっかけとした、各地域における普及活動の加速化
- ✓フレスコボールの地域クラブ設立推進（目標：2025年まで47都道府県での地域クラブ設立）
- ✓全国でのフレスコボール体験会の実施促進
- ✓選手モチベーション向上を目的とした本場ブラジルや国際機関との連携、およびフレスコボール日本代表選手団の参加大会の開発、およびチームマネージメント
- ✓国際連盟の立ち上げ（ブラジル有力選手との連携・合意済。統一ルールでの世界大会実施に向け、準備中）

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

- ✓ 沖縄県内に一般社団法人日本フレスコボール協会の沖縄オフィスの設立し、地元企業協賛営業強化、県内広報強化、沖縄県内独自のラケット発送拠点の開発
- ✓ 沖縄県産のラケットの開発と販売
- ✓ 吉本興業（沖縄）ありんくりんの沖縄県外イベントでのキャスティング、広報連携
- ✓ 沖縄県大会にブラジルなど世界トップ選手エキシビジョンマッチ招聘

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

令和4年度スポーツツーリズム戦略推進事業（スポーツイベント支援委員会運営業務）
定着化枠 ちゅらうみ海道サイクリング（2022 沖縄県サイクリング大会）
付帯事業 ちゅらうみ海道セルフサイクリング

実施報告書（概要版）

令和5年2月7日

一般社団法人沖縄県サイクルツーリズム推進協会

■事業実施概要

【実施目的】

小規模サイクリングイベントとセルフサイクリング(フォトコンテスト)を同時期開催し

- ・安心安全で誰もが参加しやすいサイクリングイベントを目指す。
- ・閑散期の観光誘客を促進する。
- ・サイクルツーリズムで地域活性化を図る。
- ・地域・事業者・参加者の三方良しで、みんなに愛されるイベントに育てる

【実施内容】

- ・主催：沖縄県サイクリング協会
- ・共催：一般社団法人沖縄県サイクルスポーツ振興協会
- ・後援：本部町、今帰仁村、名護市、大宜味村、国頭村、本部町教育委員会、
一般社団法人本部町観光協会、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー
- ・実施日程：2023年1月7日（土）・8日（日）
付帯イベント セルフサイクリング
2022年12月1日（木）～2023年1月31日（火）

・実施内容

ちゅらうみ海道サイクリング（2022 沖縄県サイクリング大会）の実施

「やんばるの美らさん～自然・海・山～を走ろう」をテーマに実施

大会基本概要

名称：ちゅらうみ海道サイクリング（2022 沖縄県サイクリング大会）

会期：【大会当日】※雨天決行、荒天中止

令和5年1月7日（土）11:00～17:00

フクギ並木ファミリーコース 10km

令和5年1月8日（日）6:00～17:00

やんばるちゅらしま海道コース 60km、やんばるの自然コース 100km

①受付（検温、ゼッケン確認、）

②コース実走

【同時開催】令和4年12月1日（木）～令和5年1月31日（火）

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

① セルフサイクリング

開催場所：沖縄県北部地域（本部町、今帰仁村、名護市、大宜味村、国頭村）

会場：メイン会場 / 本部町運動公園（陸上競技場側駐車場）

コース・エイドステーション / 本部町、今帰仁村、名護市、大宜味村、国頭村
（計5市町村）

主催：沖縄県サイクリング協会

共催：一般社団法人沖縄県サイクルスポーツ振興協会

後援：本部町、今帰仁村、名護市、大宜味村、国頭村、本部町教育委員会、

一般社団法人本部町観光協会、一般社団法人沖縄観光コンベンションビューロー

協力：NPO ツール・ド・おきなわ協会、名護ツアーセンター

協賛：株式会社ジャイアント、株式会社千代田組、沖縄輪業株式会社、北部港運株式会社、

光文堂コミュニケーションズ株式会社、本部町飲食業組合、もとふかりゆし市場、

沖縄ボトラーズ株式会社、有限会社山川酒造、備瀬区、羽地の駅、

ユナムダクマ協議会、古守利島の駅ゾラハシ

事務局：一般社団法人沖縄県サイクルツーリズム推進協会

コース：●ブクギ並木ファミリーコース 10km / 定員：50名

●やんばるちゅらしま海道コース 60km / 定員：100名

●やんばるの自然コース 100km / 定員：150名

申込方法：①スポーツエントリー

②参加申込書を郵送して、参加費をお振込み

③店頭でお申込み（6店舗）

募集期間：令和4年11月1日（火）～ 令和4年12月16日（金）

その他：①レンタサイクル受付可

・集客人数

目標	令和2（実績）	令和3（実績）	令和4（目標）	令和4（申込）	令和4（実績）
県内参加者	97	62	120	181	167
県外参加者	1	9	180	65	56
海外参加者	0	0	0	2	2
付帯参加者	5	4	50	59	66
総集客数	103	75	350	307	291

今年度から、付帯参加者は役員スタッフを入れています。（昨年度まではセルフサイクリングの参加者）

・集客人数増減理由

大会参加者目標数値300名に対し実績（実定）数値225名であった。新規に100kmコースを設け、またコロナも落ち着き昨年からの参加者は2倍以上になった。県外参加者は

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

実走 56 名で、昨年より 5 倍以上となり、全体の約 24%であった。目標の 180 名に対しては、まだまだ少ないので、県外参加者を増やすための施策を考える必要がある。県内参加者は、目標 120 名に対し、申込 181 名で大きく達成した。また、海外からは予想していなかったが、香港から 2 名の参加があった。次年度以降は、海外参加者向けに募集も対応していきたい。

実施報告



大会協賛ボード



出発式



協賛品・受付



10km 自転車教室



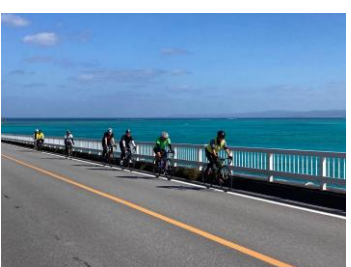
10km 備瀬区エイド



10km 修了証授与



60km 古宇利大橋



60km 古宇利大橋



60km サイクリングリーダー



100km リカリカワルミ



100km ゆいゆい国頭



60km 昼食 (大会会場にて)

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書



60km 古宇利島の駅ソラハシ キッチンカー（大会会場）

協賛品抽選__当選者

【感染症対策】

- (1)こまめな手洗い、アルコール消毒液による手指消毒を実施すること。
- (2)イベント中、大きな声での会話や応援などをしないこと。
- (3)イベント前後での懇親会の開催を控えること。
- (4)参加者並びに観戦者には、参加前後における行動について感染リスクの高い場所への行動を回避するよう周知する。
- (5)感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと。
- (6)受付時に検温を行う。
- (7)以下の事項に該当する場合は、イベント参加を自粛するよう要請する。
 - ・体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - ・同居家族や職場など身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・過去14日以内に政府が入国制限している国やコロナ感染拡大地域への渡航歴がある。又、それら地域の在住者との濃厚接触がある場合
- (8)イベント終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無について報告すること。
- (9)基本代走は認めないこととする。

■ 実施報告



手指消毒などお願いの表示

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

■ 事業実施結果

大きなトラブルなく無事に大会が終了した。天気に恵まれ最高のサイクリング日和だった。今回から 100km コースを設け、またコロナが落ち着いてきたこともあり、参加者が約 2 倍に増え県外海外からも全体の約 24%とたくさんの人に参加頂いた。

アンケートでは、満足・やや満足がほとんどだった。理由としては、エイドステーションや昼食など食べ物がいっばいで良かった、景色が良くいいコースだったという回答が多かった。

大会準備については、今回で 3 回目の大会なので、地元の関係者とはスムーズに調整ができた。また、物品提供も前回同様頂けたのと、協賛金も新たに 2 箇所から頂くことができた。

■事業総括（自走化に向けての課題と今後の展望）

来年度から自走になるが、これまでと同じように小規模開催で地域と連携し実施していきたい。

やはり自走化に向けての一番の課題は、収益化であるが、今年度の成果としては、まずは、大会会場設営に係る経費のテントや看板設置を省いて実施できたことで、大きな経費削減ができた。また、コロナが落ち着いたのも大きな要因だが、100km コースの新設で参加者数が 2 倍超になり、参加費が 2 倍になった。県外海外からの参加も全体の約 24%となり、経済効果もアップした。さらに、新たに 2 箇所から協賛金を頂いた。

しかし、これだけではまだ完全に自走化は難しいので、参加者は定員を満たせるようにすること（あと 60 名）と、協賛金を引き続き新規で頂けるようにする。

経費削減については、参加者へのサービスは減らさずに、例えば、広報宣伝を経費は減らして効果がでるものを選ぶなど、工夫していきたい。

各市町村もサイクルツーリズムへの関心は高まっているので、本大会へもより協力を得られるように働きかけていきたいのと、開催地域の地元参加も増やしていきたい。

【付帯事業】

■事業実施概要

【実施内容】

- ・主催：沖縄県サイクリング協会
- ・共催：一般社団法人沖縄県サイクルスポーツ振興協会
- ・事務局：一般社団法人沖縄県サイクルツーリズム推進協会
- ・開催期間：2022 年 12 月 1 日（木）～ 2023 年 1 月 31 日（火）
- ・エントリー期間：2022 年 11 月 1 日（火）～2023 年 1 月 31 日（火）
- ・実施場所：ちゅらうみ海道サイクリングの「やんばるの自然コース 100km」を基本コースに設定。
- ・イベント参加料金：2,000 円（アプリ利用料、補給食、参加証）

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書

・参加資格：①サイクリングスマホアプリ「Velodash」をインストールしたスマートフォンを持参していること。②参加規則・交通規則・マナーを遵守できること

・参加の流れ：①登録 Velodash スマホアプリよりエントリー。必要事項を入力の上、決済まで完了させる。②コースを走る 各市町村のスポットで美味しい補給食をゲット。③写真を撮る。④ゴール ⑤セルフサイクリング DE フォト 2023 Instagram に指定ハッシュタグ「#オキナワライド2023」をつけて投稿。

・集客人数

目標	令和2(実績)	令和3(実績)	令和4(目標)	令和4(申込)	令和4(実績)
県内参加者	5	1	50	6	6
県外参加者	0	3	50	1	1
海外参加者	0	0	0	1	1
付帯参加者	0	0	0	0	0
総集客数	5	4	100	8	8

集客人数増減理由

目標人数100名に対し、実績8名であった。コンテンツの作りこみと宣伝不足が原因だと考える。今後も継続して、少しずつ認知度をあげていきたい。

実施報告



レンタサイクル



Yui Cafe 補給食ゲットポイント



ももぶらりゆし市場 補給食ポイント



羽地の駅 補給食ゲットポイント



リカリカワルミ 補給食 get ポイント



古宇利大橋

7.採択事業概算報告書

(1) スポーツイベント支援事業者概要報告書



卓上 POP もとぶかりゆし市場



卓上 POP 古宇利島の駅ソラハシ



補給食 黒糖シュークリーム



補給食 カーブチー蒟蒻ゼリー

【感染症対策】

- ・参加前に体調を確認し、体調不良や、少しでも熱があれば参加を控えていただく。
(アプリ内の主催者からの注意事項に記載)

■ 事業実施結果

今回は、付帯事業枠として予算を頂き実施したが、参加者8名のみにとどまった。店舗での視認性アップのため、卓上POPやのぼり旗、タペストリーを設置し、チラシも置いてもらうなど店舗には協力頂いた。

参加者の一人は、日本人の方だが、台湾から春節で帰省中にサイクリングイベントを紹介して欲しいとのことで、セルフサイクリングを案内したところ、喜んで頂いた。春節の時期は、他にサイクリングイベントがないので、セルフサイクリングの需要はあると考える。中華圏の方々にPRしていきたい。

■事業総括（自走化に向けての課題と今後の展望）

課題としては、認知度が低いことと、参加の仕方と楽しみ方がわかりにくいと思うので、どのような内容だったらたくさんの方に参加頂けるかを検討して、通年開催で継続しながら試行錯誤を繰り返していきたい。

店舗の方は協力的だったので、今後は協力店舗を増やして実施したい。

また、ホテルさんがシェアバイクを設置しており、なるべくスタッフの負担にならずにおすすめのコースなどを紹介してくれるものがあると良いとのことだったので、セルフサイクリングを提案してみたいと思う。

8.事業総括

(1) 事業総括

事業別イベント定着化に向けた成果と課題

【株式会社 ジャパンリーグ】

成果

- ・県外からの参加者が多く、ツーリズムの観点から滞在中の経済効果は高いイベントである。
- ・次年度は海外誘致も予定している為、更なる経済効果が期待できる。

反省

- ・来場者が少なく、イベントとしての盛り上がり小さかったため周知方法の検討が必要だ。
- ・リアルな情報を発信する必要があるため、WEBページの更新頻度を高く行う必要がある。

【T&Tアーバンソリューションズ株式会社】

成果

- ・スケートボードだけではなく、パルクールや他のアーバンスポーツも同時開催することで参加者数が増やすことができるイベントである。
- ・アジアでも競技人口は増えている為、今後海外参加者も増える可能性がありスポーツツーリズムイベントとして期待できるイベントである。

反省

- ・参加者が県内が多い為、県外客を増やす為の具体的な施策を検討する必要がある。
- ・付帯イベントで行った教室を発信し、参加する動機付けをつくり本イベントへ参加するきっかけづくりをする必要がある。

【一般社団法人フレスコボール協会】

成果

- ・参加型のスポーツイベントになる為、沖縄のビーチイベント等とタイアップすることで本イベントの競技人口や帯同者も増える可能性があり沖縄経済への貢献に期待できるイベントだ。
- ・宮古島での開催だったが、参加者の多くが神奈川・神戸・岡山と県内より多い結果となった。また、参加者が約400名と前年より+約180名と増え更なる参加者増加の収入の獲得が期待できる。
- ・地元の木材を使用したラケットを制作しており、地域との連携がしっかりしているイベントであった。

【一般社団法人サイクルツーリズム推進協会】

成果

- ・昨年度の反省を活かし、施工費用を抑え参加者を満足させる為に工夫した運営になっていた。
- ・物品や協賛金を新規での獲得ができており、地元との連携ができていた運営となっていた。

反省

- ・県外の参加者が、県内に比べ約100名少ない人数となった。県外向けについて効果的なプロモーションを行う必要がある。
- ・付帯イベントについては、参加者が8名となった。開催箇所周辺ではなく、本島内のサイクリングルートや休憩ポイント等にポスター等周知する為の仕組みを検討する必要がある。
- ・付帯イベントについては、周遊スタンプラリー等の施策をすることでイベント感覚で楽しめるきっかけ作りが必要だ。